

第3学年2組 社会科学習指導案

第5校時 場所302教室 授業者 山下 聖皓

1. 単元名「高浜の力～わたしたちの声で災害に強いまちをつくろう～」

(8時間完了)

2. 単元目標

- ・近い将来予想される大地震について、自らの課題として高浜の防災対策について考えようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・高浜市の防災対策や、他地域の取り組みを比較しながら、様々な防災対策を考えることができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・高浜市や、他地域の防災対策を調べ、その取り組みについてわかりやすくまとめることができる。(資料活用の技能)
- ・高浜市の地方自治のしくみについて知り、どのように市民の声が地方自治に反映されていくか理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

3. 単元構想

○生徒観

本学級の生徒は、落ち着いてしっかりと課題に取り組める生徒が多い。資料を提示すれば、多くの生徒がじっくりと向き合い、知識を問う一問一答形式の発問には挙手をすることができる。一方、社会事象に対して自らの考えを問う発問に対しては積極的に表現することは少なく、自分の考えを表現することに対しての苦手意識が強い。

しかし、人権の学習でハンセン病患者に対する国の対応について扱った際には、教師が準備した視覚的にわかりやすい資料をよく見て考え、国の対応が自由権を侵害するものであると考え、さらに患者たちが自らの人権を確保のために活動したことに共感する姿が見られた。このように視覚的に訴える資料によって課題を適切にとらえ、思考を高める姿が見られた。

近い将来に予想される高浜市の災害についても、視覚的にわかりやすい資料を提示することによって、自らの課題としてとらえ、思考を高め表現することができるであろう。

○教材観

東日本大震災以来、防災に対する関心は非常に高まってきている。高浜市においても、30年以内に、東海地震や東南海地震が高い確率で起こることが予想され、震度6強を超えると言われていた。海に面した高浜市にとっては、5mの津波や液状化現象なども想定され、高浜市民の不安は大きい。

しかし、高浜市では、小学校の総合的な学習の時間で、防災教育を行っているものの、中学校では積極的に行われていない。そこで、市の防災マップを自分たちの生活と関連させて考える資料提示することで、防災に関する問題を身近にとらえ、思考・判断・表現する力を高めることができるであろう。また、近年になって防災倉庫をはじめとする防災対策がとられてきたが、予想される大震災の甚大な被害に対し、十分に住民を救えるだけの設備や備蓄が整っているとは言い難い現状にある。さらに標高の表示を積極的に行っているが、生徒たちは行政の取り組みが不十分であると考えているであろう。この状況を生徒たちが認識すれば、より切実感をもって自分の地域の在り方を考えることができるであろう。

よりよい高浜市をつくるため、考えをもち、声を上げ、行動に移すことが社会参画と言える。しかし、実際には、市は厳しい財政状況を抱えている。また、一部の市民の声だけで市政を動かせるわけでもない。つまり、市民の要望にすべて応えることはできないわけだが、このことを不満に思うだけでなく、どうすれば実現できるかを考えたり、自らが果たすべきことがあると感じたりしてほしい。これまで公民の学習では、社会集団の一員として果たすべき責任と義務、権利があることを学習してきた。本単元では、地方自治についての既習事項を生かし、自らの住む高浜市では、どのように防災対策が行われているかを学習する。地方自治は、民主政治の原点とされ、市民の声が実際の政治に反映されることが実感しやすいと思われる。自分たちが責任を果たそうとし、

その代わりに市へ働きかけようとする社会参画の在り方を考えさせたい。

○指導観

本單元では、導入として東日本大震災の被害を映像によって振り返る。大きな揺れと同時に、海に面した高浜市にとって深刻に考えなくてはならない問題が津波による被害である。そこで、高浜市の防災マップをもとにして作成した地図を使って自らの生活に関わる場所を確認する作業を行う。この地図では、高浜中学校区には直接的な津波被害はあまりないことがわかるが、高浜市の市街地に甚大な被害をもたらされることが読み取れる。この作業を通して、地震の被害の大きさや、地震や津波によって命を失う可能性が少ない自分が何をすることができるかという課題に対して切実感をもって向き合わせることができるであろう。防災対策はどこまでいっても十分といえることはないのであるが、大きな被害が予想される高浜市が防災に対して十分に取り組んでいるかどうかを考えていきたい。

一人調べではインターネットや新聞記事から高浜市の防災倉庫の数を調べたり、他市の防災に対する取り組みを参考にしたりして、高浜市の防災への取組について評価させたい。

高浜市が防災設備を十分に整えていないことに不満をもつ生徒は多いであろう。一方で、財政が不十分であることから、より市民が積極的に関与すべきだと考える生徒もいるであろう。これらの意見をもとにして、市に対して要望を無責任に突きつけるだけでなく、市民の一人として、自らにできることを考えていくことを期待したい。また、高浜市の中でも甚大な被害が想定される南部地域において実際に防災について取り組んでいる方の意見をいただき、考えをさらに深められるようにしたい。そして、自分たちの考えを市に対して提案し、要望したり実行しようとしたりしていく市民としての姿勢を育みたいと考える。

5. 本時の学習

(1) 本時の目標 (本時6/8)

- ・高浜市の防災について調べたり、まとめたりしたことを積極的に発表することができる。
(関心・意欲・態度)
- ・大地震への備えについて、高浜市は十分に取り組んでいると言えるか、また災害の際に自分たちはどのように行動すべきか根拠をもって考えることができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 手だて (本時の一工夫)

- ・災害時に、中学生や高校生が活躍した実例を示して、中学生である自分にも負担できる役割があることに気づかせる。
- ・実際に高浜市で防災に関わっている方の話を聞き、行政に頼るばかりでなく、自分たちに何ができるかについて考えることができるようにする。

(3) 準備

- ①生徒：ワークシート、発表用資料
- ②教師：自作の防災マップ、標高表示の新聞記事

(4) 学習過程

時間	学習活動	教師の支援・留意点
5	1 高浜市の標高表示の取り組みについて確認する。 2 各自考えた意見を発表する。	・単元の導入部で示した新聞記事を提示し、本論題に至った経緯を振り返ることができるようにする。
	高浜市は防災に対して十分に取り組んでいると言えるだろうか。	
30	<p>【十分に取り組んでいる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高浜市の財政を考えれば、よくやっていると思う。 ・総合避難訓練の取り組みを高浜市はやっている。決して標高表示だけでない。 <p>【不十分である】</p> <p>→行政に期待したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄倉庫が少ないし、中の備蓄品も不十分だから、もっとやってほしいことがある。 ・他の地域は、くふうした避難訓練をしているから高浜市の訓練も改善したほうがいい。 ・海沿いの市なのに、目立った津波対策をしているとは思えない。 <p>→市民が努力すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生も率先してできることがある。 ・避難所でボランティアとして活動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席をコの字型にして、互いの顔が見えるようにし、意見を聞きやすくする。 ・根拠を明確にして意見を述べるように促す。 ・関連する発言を色チョークで結び、意見がつながるようにする。 ・話し合いが停滞した場合は、市の財政の状況を伝え、何を優先的に取り組むべきか考えるように促す。
	高浜市民である自分にできることは何かないのだろうか。	
40	3 中学生である自分たちにできる防災対策を考え、発表する。 ・自分の家で準備するものを、家の人に伝えるよ。 ・中学校が避難場所になったら、避難してくる人の案内ができるよ。 ・災害時に、伝令として情報を届けるのはどうかな。 ・高齢者や小さな子を助けながら避難する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に頼るのではなく、自主防災の観点から考えるように促す。 ・中学生が高齢者や要援護者と避難した記事を調べた生徒の発表を促す。
45	4 防災に関わって働く方のお話を聞く。	・実際に高浜市の行政で防災に関わっている方の話を聞き、平日の日中の災害では中学生への期待が大きいことを伝えていただく。
50	5 本時の感想を書く。 ・自分でできることを考えておこうと思った。	

4. 単元構想表 (8時間完了)

【はたらきかけ】

【身につけさせたい力】

大地震がきたら、高浜市にはどのような被害があるのだろうか？ (2)

出会う

東日本大震災では、どのような被害があったのだろう。

- ・震度7は、ものすごい揺れだ。
- ・家が壊れてしまうのが心配だ。
- ・地震の発生時間によっては、火災が広がるかもしれない。
- ・やっぱり津波はおそろしい。
- ・あんな地震が高浜にも来るのか。

東海地方を大地震が襲ったら、高浜市にはどのような被害があるのだろうか。

- ・高浜中学校の学区は比較的、安全なようだ。
- ・田戸町は深刻な被害がありそうだ。
- ・僕は日曜日に、海沿いでサッカーをしているから津波が心配だ。
- ・高浜市全体を考えるとかなり大きな被害を受けるんじゃないか。
- ・高浜市はしっかり準備できているのだろうか。

- ・東日本大震災の映像資料を見せ、大地震の被害を想像しやすくする。
- ・高浜市の災害マップを作成し、高浜市に甚大な被害が予想されることを実感させる
- ・高浜市の標高表示の取り組みを紹介し、市の取り組みとして十分といえるか考えさせる。

- ・震災の映像や防災マップを見て、高浜市の防災について興味をもって考えることができる。(関・意・態)
- ・高浜市の災害マップに自分の生活圏を重ね合わせるなどをして、高浜市の被害について具体的に考えることができる。(思・判・表)

高浜市は防災に対して十分に取り組んでいるだろうか？

高浜市の地震対策について調べてみよう (3+自主課題)

調べる

高浜市ではどのような防災対策がされているのだろうか。

- ・学校では、津波を想定した避難訓練をした。
- ・高浜市では、総合防災訓練で安否確認の訓練をしている。
- ・高浜市は土地の高さを表示するようにすすめている。
- ・防災用の放送設備が正門のところに設置されている。
- ・高浜市はこれで大丈夫かな。他の地域の取り組みも調べてみよう。

他の地域ではどのような防災対策がされているのだろうか。

- ・体育館での避難生活を想定して、ダンボールで間切りを作る訓練をした記事を見た。
- ・災害時の避難所の見直しをしているところがあった。
- ・防災倉庫に立ち寄ってから避難する訓練をしているところがあるそうだ。
- ・市民の「駆け足訓練」をやった地域があった。

- ・備蓄倉庫備蓄一覧を読み取り、高浜市の防災対策の実情をつかむ。
- ・「わかりやすい予算書」や「総合整備計画書」から、高浜の財政を意識して防災対策について考えを持たせる。
- ・インターネットや新聞記事を調べ、様々な地方の取り組みを調べさせる。

- ・高浜市役所のホームページや新聞記事などの資料を活用して調べ、高浜市や他市の防災についての取り組みを読み取ってまとめることができる。(資料活用)
- ・調べたことをもとに、高浜市の防災の取り組みについて根拠をもって評価することができる。(思・判・表)

高浜市は防災に対して十分に取り組んでいると言えるだろうか 話し合おう (1)

深める

高浜市は防災に対して十分に取り組んでいると言えるだろうか。

- ・防波堤を設置すればいいと思う。
- ・建物の耐震化を進める必要があるだろう。
- ・備蓄倉庫は充実させなくてはいけないと思う。
- ・津波の被害が想定されている地区の避難所は見直す必要がある。
- ・すべて市にやってもらおうとしても難しいのではないか。
- ・設備の問題よりも、どう避難するかが重要な気がする。

十分に取り組んでいる
十分とは言えない

高浜市民である自分にできることは何かないのだろうか。

- ・高浜中学校へ避難してくる人を安全に校内へ誘導する。
- ・3日分の食糧の貯えはしておこうと思う。
- ・私の家は、津波の被害がほとんど心配されないから、近所の人に声を掛けながら避難しよう。
- ・学習してきたことを市民に広める努力をしよう。
- ・市に要望を届ければ実現することがあるかもしれない。
- ・地区の高齢者を訪問し、所在の確認をする。

- ・他地域の取り組みを参考に、高浜市に合った防災対策を考えさせる。
- ・高浜市基本自治条例について触れ、中学生としての社会参画のあり方を考えさせる。
- ・東日本大震災における同世代の子たちの活躍を紹介する。
- ・高浜市の防災に携わる方に話し合いを参観していただき、助言を求める。

- ・高浜市の防災について調べたり、まとめたことを積極的に発表することができる。(関・意・態)
- ・大地震への備えについて、高浜市は十分に取り組んでいると言えるか、また災害の際に自分たちはどのように行動すべきか根拠をもって考えることができる。(思・判・表)

考えを實現に近づけよう。(2)

いかす

自分で行動しよう。

- ・高齢者宅に「避難完了ステッカー」を配布しよう。

自分たちの考えを市に届けてみよう。

- ・防災マップの再確認を呼びかけよう。
- ・避難訓練の改善を提案しよう。
- ・高浜中学校で準備しておくことを公表しよう。

どのような方法があるかな。

- ・パブリックコメントの制度を活用すれば市議会に届くかもしれない。
- ・市の広報にお願いを掲載してもらおう。

- ・前時のアドバイスを参考に現実味のある防災対策を再考させる。
- ・他者に公開するものであることを意識させ、責任をもてるものを形にするように促す。

- ・これまで学習してきたことをもとにして、自分の意見を市への提案としてまとめることができる。(資料活用)
- ・震災の際に被災した人々の思いを想像しながら自分ができることを考えることができる。(思・判・表)